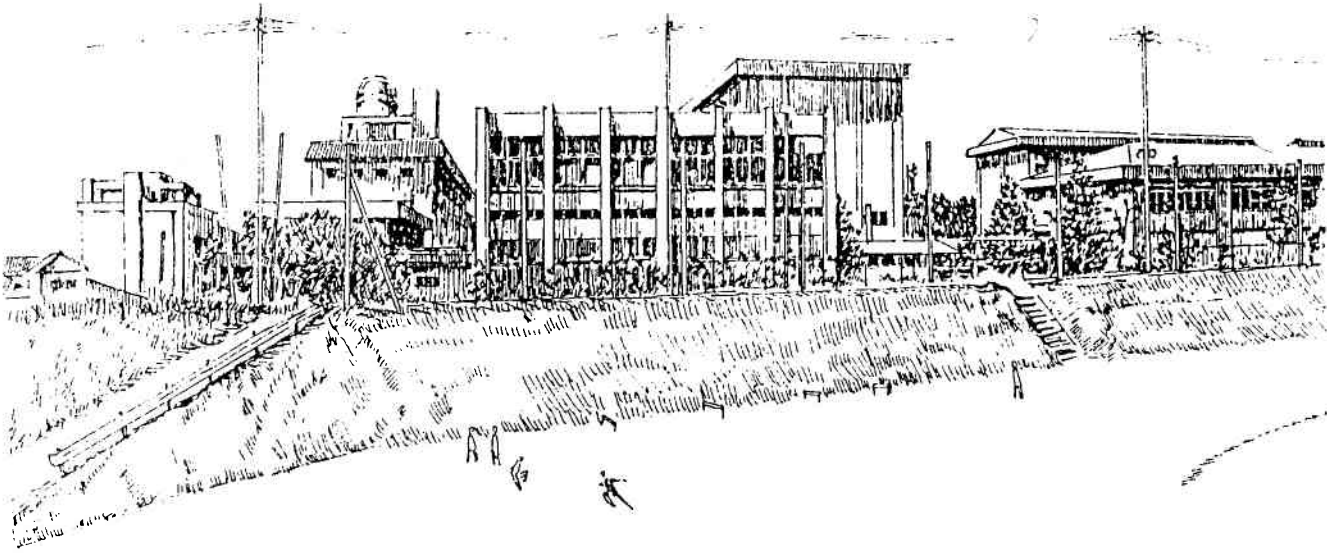


発行
千葉県立船橋高等学校同窓会

千葉県船橋市東船橋6-1-1
☎ 273 ☎ 0474-22-2188

印刷 (有) 青孔社
船橋市宮本6-31-19
☎ 0474-23-5551

同窓会だより



七十周年を迎えて

同窓会副会長 萩原 忠

本校は大正九年千葉健吉先生により船橋中学院として船橋大神宮客殿にて授業をし生徒の増加に伴って大正十三年に宮本六丁目（現在地）に二〇〇坪（約六七〇〇平方米）の敷地に二階建八教室の校舎を建築して中学院として昭和六年からは中学校として中学校第八回卒業迄二十一年間地域の教育発展に寄与した。私はこの間私立一回生以降若干ですが知っており、昭和十二年にはジャム（現タイ国）の海軍の士官及び下士官が約一〇〇名程度約十ヶ月間本校の旧校舎で海軍としての訓練をしていたことをおぼえております。又船橋市は昭和十二年に市政を敷きましたが公立の中学もなく当時の市長後藤秀四郎氏は市に公立中学校を願って私立船橋中学校理事長千葉氏に仲介者として船中第四回卒の大浦先輩の御尊父と私の父とで市長と千葉氏との間に再三協議をして昭和十五年春船橋市が買収し市立船橋中学校として創立された此の間二十年間千葉氏が理事長として校長に齊藤林平氏（昭和十年頃の町長）後に文学者五弓安二郎氏が私立時代を学校運営に当って公立に引継いたことは特段の学校教育発展と現在の学校があるわけがこの期を船中の一期（初期）と云われる。

第二期（中期）にうつり紀元二千六百年の式典が大神宮境内で行はれこれが公立中学校の第一歩をふむと同時に第二次世界大戦に突入

していき本校としては公立初代の校長として山中肇先生を迎え、そして四年後（昭和十九年）には県立中学校として進み終戦を迎えて定員千名少数と定時制の併設され百人定員で益々県を中心の学校として時に校長として梶原の神原克重先生を迎え昭和二十四年の管制改革で六三三制となり中学校から高等学校となり一時的に新制、旧制併設中学とし二十五年に第一回の高等卒業生を出し現在迄四十二回の卒業生を出し県下屈指の進学校となりそして卒業生も二万人となり今日になり今日十一月二十四日には七十周年の記念行事を行うことが出来同窓生諸君と喜び合いなお一層本校発展をお祈りします。此の期に学校と同窓会では緑化の推進を記念事業の一つとして進めて参り現在迄募金総額二千数百万円となり校門及校庭に緑の草木でうめつくし二十一世紀に邁進し加えて八十周年百周年を迎えたいと思っております。

七十周年を迎え同窓会も学校と共に発展して居ります。尚七十周年記念事業実行委員会の委員長は同窓会長の森田廣氏がやっておりますこの九月末病気になるれたことを同窓会一同会長の御回復をお祈りして終りとします。最後に本校の発展と同窓生一同の御健勝を祈念して筆をおきます。（森田会長御病気のため、萩原副会長に代筆を御願ひ致しました。）

輝く伝統を後輩に

創立七十周年記念式典式辞

学校長 二一 橋 衛



本校の草創・基盤整備とも言うべき前半の歴史は、太平洋戦争の終結に至るまで、まさに我が国激動の四半世紀と重なり、苦難の道を通ったのであります。

顧みるに、本校の創設は大正九年、延喜式にもその名を留める由緒ある意富比神社（現在の船橋大神宮）の客殿を教場として創められた船橋中学校に遡り、今までの七十年の歳月を重ね、その間地域における中等教育の牙城として有為な人材を世に送って参りました。

七十年の歴史をふり返る時、本校誕生の大正九年（一九二〇年）という年は、外には、第一次世界大戦終了後の新秩序ベルサイユ体制のもと、国際連盟が発足し、内には、普通選挙を求める運動や労働運動など、いわゆる大正デモクラシーの高まりを見る時代でありました。教育の世界でも高等教育の拡充が進められ、大学令により早稲田・慶応義塾などが私立大学として設置を認可された年でもあります。本校創立はまさにこの新しい動きの中で始まったのであります。かねてから教育に熱心であった船橋大神宮の宮司千葉建吉先生は、まだ潮の香惹う漁師町であったこの船橋の地に、東京や千葉に

本校の後半の歴史は、昭和二十三年、戦後の学制改革による県立船橋高等学校の発足に始まり、そこから教えても既に四十年余の歳月が流れたわけであります。その間、本校は、神原、山口両校長、更にそれに続く歴代各校長の卓越した識見と献身的なご尽力により、又、それぞれの時期を支えた教職員、生徒のたゆまざる努力の結果急速な脱皮と躍進を遂げるに至りました。生徒数の増加、校地の拡張、校舎の新増築等、物量の拡大はもとより理科科目の設置、そして或は大学進学に、或は部活動に輝かしい成果を収めるなど、大きな質的転換を遂げてきたのであります。

今日の「船高」はまさにその延長線上に存在するものであります。今、ここに創立七十周年を迎えるに当たり、改めて深い感慨を覚えたことでの先輩各位のご努力に敬意を表するとともに、色々とご支援を賜った県・市・同窓会・保護者の皆様そして、地域の関係各位に衷心より感謝申し上げます。次第であります。

この度、この創立七十周年を記念して、県教育委員会の特別なご配慮により、三階建てのセミナーハウスや特殊ガラスのドーム付屋内水泳プールなど、本校が他に誇る新たな施設の完成をみる事ができましたし、又、母校を思う同窓の方々の温い浄財は新装成った前庭、中庭の植樹となって実を結び、七十年の歴史にふさわしく、

一段の風格を備えることができましたことを関係各位に厚く御礼を申し上げます。さて、生徒諸君、この機会に、諸君に望みたいことがあります。「花輪辺は思い出さず、若き日は悔いなきなりけり。」これは本校校庭の一隅に今も残る「中学碑」に刻まれた一文で、諸君の先輩が旧制中学の消え去るのを惜しみ、本校での学生生活への思いを託して書き残したものであります。この一文が物語る如く、本校七十年の歴史を通して貫き流れるものは諸君の先輩の、活力に満ちた青春の努力の軌跡であります。そこには前進と停滞、栄光と苦難、それぞれ交錯しながらも、「専心研学、自学自律」の校風が今なお連綿として受け継がれているのであります。

情を培い、或は学問に、或はスポーツや芸術に全精力を打ち込んできたのであります。諸君はこの機会に、遠く、草創の苦しみに思いをいたし、営々と築き上げた先輩の努力の跡を偲ぶとともに、今この「船高」で学が喜びと誇りを忘れることなく、心を新たに精進を重ねこの輝かしい伝統と校風を守り育て、後輩に引き継ぐ責任があることを自覚してもらいたいと思っております。

創立七十周年は単に過去への回顾ではありません。伝統は単なる古さや惰性であってはなりません。伝統を守り、引き継いでいくためには、常に清新潑刺高い理想を追求し、常に真摯な努力を積み重ねていかなければならないことを心に強く銘記すべきであります。

勿論、我々教職員も徒に伝統に溺れ、沈滞することのないよう自戒し、次なる創立百周年に向けて更に研鑽を積み精進を重ねるべくここに決意を新たにしております。

これまで本校で学んだ若者は約二万人。学校の名称や校舎のたたずまいは変わっても、その時、その時代、先輩はそれぞれの人生の黎明期を、青春の理想を胸に、自己の目標をめざして自らを鍛え、友

七十周年記念式典を迎えて

同窓会事務局長

小石 税

県立船橋高校同窓生の協力のおかげで七〇周年記念式典が平成二年十一月二十四日に無事に終了しました。当日協力をしていた多くの同窓生に出席をしていただき、ありがとうございました。同窓会に対する認識を高めたのはないかと思っております。特に高校一回より二〇回卒業の

又森田会長が晴の式典に病気で出席できず、残念でなりません。しかし今回の記念事業が、ほとんど同窓会の皆様からいただいた資金が主力であり、今後学校側でも同窓会に対する認識を高めたのではないかと思います。

学年代表幹事及び学校側事務局(同窓生)には心から感謝申し上げます。学年代表幹事が頑張ってくれたので二五〇〇万以上の大金が募金出来たわけで御座居ます。私はこの七〇周年に向けての三年間を通じて一番大きな成果は同窓生が我が母校に顔を向けていたのだ事です。最近の卒業生はほとんど一流大学へ進学します。実社会では最優秀大学と言いません。毎日会っている人でも、気付かづにいる方も多かったと思います。しかし、同窓会を卒業以来開いてない所でも、今後は、心あらたに、毎年開きますよ、と喜んで居る幹事に出会い大変うれい事です。

地域社会で多くの卒業生が活躍している事を、今回、初めて理解した人も多しと聞きました。今後は支部組織作りにも全力をあげたいと思います。

今回募金を推進するにあたってどうしたかです。まず学校側から今回七〇周年記念事業の分担で五〇周年度はPTAが主力で募金活動をしました。現在ではPTAは三年間で式典の費用を募金出来ないと(一五〇万円)と説明があり、どうしても、同窓会で最低一〇〇万円が必要であり、集めなければならぬと森田会長の決意がありました。

年間予算一〇〇万円の同窓会です。どのようにするの理事会では議論しますが、毎年八月第一日曜日に行なわれる総会も六〇人位しか出席がありません。そこでまず現在の県立船橋高等学校を知ってもらい、記念事業の必要性を同窓生に理解してもらおう事で新春のつどいを二月十一日ホテル

サンガーデンで行った。始めは名刺交換会としたため女性の皆様に不評をかい、二回目より「新春のつどい」とあらため恩師にも出席していただき、旧交を暖める事が出来ました。とくに、こうした中で学年幹事を選出していた募金活動が進んだし嬉しいです。募金はまず会長の額で大きく左右されます。森田会長には、貢銭として、また、幹事が費用を立替える様では進みませんので、葉書、

七十周年を迎えて

副会長 齊藤 和夫

大正の中頃、大神宮の客殿にてその第一歩を踏んだ母校が、本年をもって目出たく「七十年」の歴史を記すことになりました。前回「五十周年」を祝ってより二十年間は瞬く間に過ぎた様に思われます。

七十年の歴史を有する高校は数多く存在するとは思いますが、本校の場合、創草の頃の経営のご苦労の模様を、種々の機会に知らされる度に、頭の下がる思いが致します。

母校七十年の歴史に、その一部分として参加する光栄を得たことは、この上ない喜びと考えます。我々の在校時は太平洋戦争の開始より終戦に遭遇したが、情熱に燃えられた先生方のご指導は、当時は感じられなかったものの、今振り返ってみますと、感謝の気持ちで胸一杯になってまいります。

爾来四十有余年、当時のご教示が、我々の血となり肉となつて、

切手代金は前払出来る金額をと、役員の皆様にお願した所、快く応じて下さいましたので大変大きい基金が集まりました。この資金が千葉県内一、二の県立船橋高校にふさわしい緑豊かな庭造りに役立ち、更には難度の高い創立七〇周年記念誌が資金で出来ればこんなにうれい事はありません。募金に協力してくれました同窓生に心からお礼申し上げ今後の皆様の活躍をお祈りします。

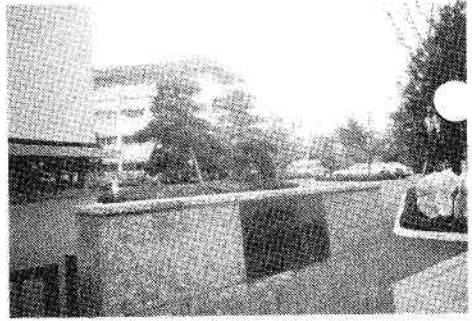
現在の我々を形成していることは否めないと思います。

数年前より「七十周年」を記念する行事の一環として、同窓会名簿の作成と、校内の緑化の推進が計画され、広く同窓の諸兄弟に浄財を募り、幹事の皆様方のご努力により募金も目標を達成し、見違える様に整備された前庭等は、母校に一層の風格を加えることと存じます。同窓会としても、今後一層その絆を強め、母校の発展に寄与致そうではありませんか。

記念式典を終えて

記念事業実行委員 堀木 伸介

本校創立七十周年記念式典は、去る十一月二十四日(土)午前10時より体育館において行われた。式典はまず、今年九月に更新された校旗の入場から始まった。旗手及び介添は本年度全国大会で活躍した陸上部の下仁君、将棋部の笠島七緒喜、堀井淳之両君で、オーケストラ部の荘厳な演奏のもと堂々とした入場行進であった。校歌斉唱の後、式辞に立った三橋校長は、

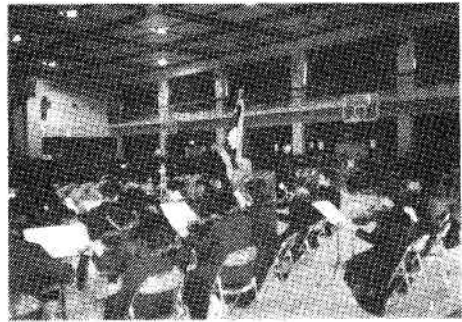


同窓の旧職員石田明也氏の記憶をもとに、音楽担当の野尻俊康教諭が採譜したものを使用した。



写真説明

(右) 現在正門付近と前庭
(右) 七十周年記念式典会場
(左) 新装「校旗」紹介

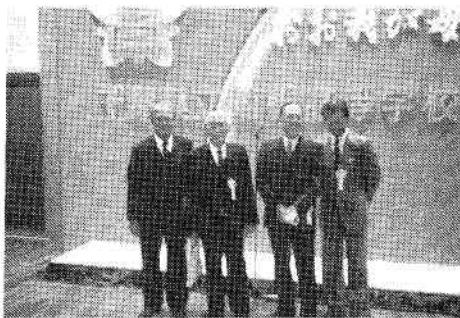
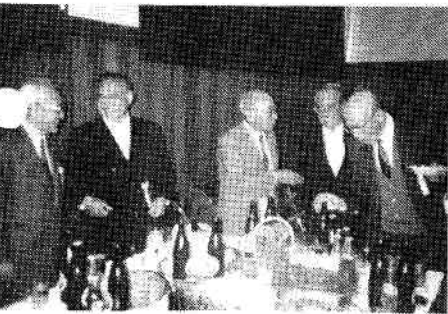
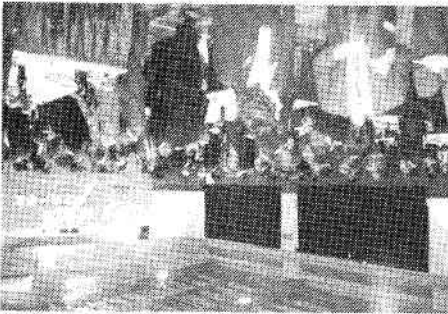


「船高に学ぶ喜びと誇りを持ち、この伝統と校風を後輩に引き継ぐ」と在校生に呼びかけた。記念事業実行委員会より副委員長長の今橋正征氏(P.T.A会長)の挨拶の後、県教育委員の国松実枝子様より祝辞をいただいた。続いて今回の記念事業に際しご功績のあった記念事業実行委員長森田廣氏(同窓会会長)へ県教育委員会より感謝状の贈呈が行われた。この後、来賓として同窓の県議会議員藤代孝七様、船橋市長大橋和夫様、校長会会長細野直様よりそれぞれ祝辞をいただいた。これに対し、生徒代表として生徒会長橋本健志君が「伝統にあこがれて入学した。恵まれた環境で学べるのは先輩たちのおかげです。七十年をひとつの節目に期待にこたえられるよう一層の発展を目指します。」と挨拶した。最後に、本校が旧制の中学校であった頃の校歌が合唱部により披露され、校旗退場をもって式典は締めくくられた。尚、旧校歌は楽符が保存されていなかった為

祝

記念事業一覧

- 一、校舎施設関係
 1. 校旗更新
 2. セミナーハウス建設
 3. 屋内水泳プール建設
 4. 体育倉庫兼部屋建設
 5. 前庭整備
 6. 中庭整備
 7. 懐古園(平成三年竣工予定
旧正門付近の整備中心)
- 二、記念行事関係
 1. 記念芸術鑑賞会
平成二年十一月二十六日
市川文化会館
ニューフィルハーモニーオ
ーケストラ千葉
指揮 田中 一嘉
 2. 記念講演会(全日制)
講師 大野 進一
(昭和三十一年三月本校卒。
現在、東京大学教授)
 3. 定時制
講師 森田 三郎
(昭和四三年三月本校卒。
現在、習志野市会議員)
 4. 本校卒業美術作家展
平成三年二月二十八日、
三月五日予定
会場 船橋東武百貨店
8. 創立七十周年記念誌の刊行
(平成三年刊行予定)



70年の節目にあたり

S33年第十回生代表
松永修己

創立70年の節目の時に皆さんと共に、微力ながら母校に協力できた喜びをかみしめております。学年でたてた目標額は100万円、たかが100万円と播をくくっておいりましたが、100万円の大台にはあと僅かで届かず残念至極に思っております。何はともあれ、各学年に伍して、五十路立ちする我が年令集団の力不足、チームワークの無さは否めないが、卒業から33年の疎遠はいかんともしがたく、各クラスの代表幹事をして同級の皆様には何かと迷惑をかけましたが、どうにか面目を保つ事ができました。紙面をお借りして感謝と御礼を申し上げる次第であります。

皆様のご厚意によるこの原資が21世紀への教育の糧とならんことを念じつつ……県立船高「万才」

懐しき再会

S40年第十七回生代表
高橋政朝

八月五日の同窓会総会の前日に友人より電話があり、その総会で七〇周年事業報告と学校への募金寄贈が行なわれる予定で、私達の学年は募金活動がなされずにいるとの事を知り、総会に出席し時間的猶予をいただき、急拠同期生と相談し募金活動を開始しました。各クラスより二名の幹事を選出し同期生の皆様に募金協力の手紙を郵送した折、二〇五名のご賛同をいただき大変感謝致しております。紙面をかり厚くお礼申しあげます。又、突然のお願いにもかかわらず



積極的に各同級生に連絡をとり、募金活動をしていただいた幹事の皆様にも厚くお礼申しあげます。今回の件にて、同期会開催希望がありましたので明年三月二十三日母校セミナーハウスにて開催することに致しました。卒業してから二〇数年後の七〇周年緑化事業が完成した母校と懐しい仲間の顔を見に是非ご出席をお願いします。今回の活動を通じ、私達が学校に疎遠だった事を強く痛感しました。私自身、八月第一日曜日の総会や二月十一日の卒業生の集いが開催されている事を改めて知りました。卒業生の皆様へ、学校の近況等を見聞きする機会として活用される事をお勧めすると共に、私も出席してゆきたいと思っております。

今後同窓会事務局は、同窓生とのパイプを太くする活動を積極的になされてゆく事と思いますが、私も卒業生として協力する所存です。最後に、色々ご支援、ご協力をいただきました事務局長の先生方に厚くお礼申し上げます。

支部活動事始

S24年第一回生代表
三代川幹夫

習志野支部結成に当り最初の会合より一年半あまり経過致しましたが、其の間地区の会員から色々な意見やら発言を頂き今日に至ったわけで御座居ます。今迄我々が経験をしてきた横の連絡でなく、縦の組織で有り年代も違いますしかなりのギャップも有りましたが、会合を重ねて行くうちに気持も段々と分り目的が何んなのか、政治的な事に関与して居るのではな

いかと思われた節も有りましたが、私共の年代では女性是一人も居ない時代でしたので、支部結成に当り女性に会計を担当してもらい会員の一人でも多く参加出来る様に努力して居る所で御座居ます。年代の違いは有りますが、役員になられた方々が仕事の多忙のかたわら精力的に協力して下さい。現在に至って居る様なわけで御座居ます。今後益々地域の会員をつのり、習志野支部の発展と会員相互の親睦と支部の基盤づくりの為に活動、又本部事業への参加と幅広い活動を今後行って行きたいと思っております。今後共習志野支部の御加入と御支援御協力をお願い致します。まして私の御挨拶と致します。

事務局から

S32年第九回生
増田能郎

本年度の事務局は、七十周年記念行事を目前に多忙を極めました。定例の理事会を始め、度々打合せという形で会議を持ちました。特に、募金事業を受持った高校一

回生から、回生の代表幹事は、学年のとりまとめ、集金業務と、その御苦労は、言葉で表せません。校内幹事は集まった資金の集約だけで大混乱でしたから、学年代表幹事の大変さは本当に、よく判ります。又、事務局局長は、理事会と代表者会の連絡を密にすべく、又集まる資金の流れを把握しつつ、事業の成功を目指し、大変な努力をされました。いづれにしまして、同窓会員諸氏が、七十周年記念に与えられた努力の結晶が結果出来た事は、誠に喜ばしい事といえると思えます。

式典の華かさに眼が向きがちですが、地味な行事として、「同窓会名簿」の完成があります。前回の名簿の欠陥を多方面から修正して完成した今回の名簿は、今後の同窓会活動の大きな礎となる事は明らかです。同様に、未完成ですが、「記念誌」が完成しますと、母校のみでなく、日本の七十年を把握する事も可能な内容を持つものと期待されています。

このように記念行事を契機に、学年代表を中心とする同窓会活動に活性が与えられ、事務局が期待する同窓会最大への第一歩が踏み出された事が最大の成果であると思われたいです。未だ予定の段階ですが本年度「新春のつどい」は、母校の施設で行うという希望が強い為、その公算が大です。旧正門の整備が未完成なのが残念ですが、その他の施設を眼にしなが、記念事業の一応の報告集会が出来る事は考えただけでも嬉しい事です。いづれにしても、活気を帯びた同窓会活動が維持発展させる事が大切ですし、その為には、会員各位の今後共変らない御援助が必要ですので、是非よろしく、お願い致したいと思います。

今回は紙面の都合で、同窓会々則等紹介出来ませんでしたので、本年度の同窓会機構を役員表をもってお知らせ致します。

会長	森田 廣	11年卒
副会長	萩原 忠	15年卒
同	斉藤 和夫	20年卒
同	佐藤 昭	21年卒
事務局局長	小石 税	30年卒
同次長	五十木陽子	28年卒
同次長	河村 信吾	36年卒
常任理事	佐藤 光生	27年卒
同	横堀 正一	28年卒
同	中村 嘉秀	32年卒
同	田久保捷三	35年卒
校長	三橋 衛(名誉会長)	
教頭	廣井 省一	年卒
事務局長	石川 浩	年卒
教諭	増田 能郎	32年卒
同	岡田 一彦	41年卒
同	堀木 伸介	48年卒
同	小川 信雄	38年卒
同	油井 邦夫	44年卒

以上は、「創立七十周年記念事業募金活動実行委員会」を中心に同窓会役員を示したもので、更に実際活動された学年代表として24年第一回生、三代川幹夫氏を筆頭に、高田健氏、片山弘氏、林昇志氏、永島義信氏、江尻成幸氏、鮎川昌澄氏、石井猛夫氏、松永修己氏、野村公平氏、天野祐昌氏、相澤友夫氏、畠山三郎氏、矢野嘉朗氏、村松裕之氏、高橋政朝氏、上田絢子氏、柿沼次男氏、子安啓司氏を含む諸氏が活躍されました。皆様への感謝と母校の発展を希望して報告と致します。

1. 生徒

(1) 生徒数

学科・学年	学級数	男女		計		
		男	女			
普通科	1年	9	261	154	415	
	2年	9	272	159	431	
	3年	文理	5	150	104	254
		物理	4	136	34	170
	計	27	819	451	1270	
理数科	1年	1	32	9	41	
	2年	1	37	6	43	
	3年	1	31	11	42	
	計	3	100	26	126	
	1年	10	293	163	456	
2年	10	309	165	474		
3年	10	317	149	466		
計	30	919	477	1396		

(2) 保護者の職業

職業	業	数
農	業	
林	業	2
水産	業	
鉱	業	23
建設	業	109
製造	業	337
商	業	147
金融	業	138
不動産	業	18
運輸	業	88
電気・ガス・水道	業	24
サービス	業	290
公	務	125
その他の	業	93
無		2
合計		1396

七十周年を迎えた母校の現況を本年度学校要覧のデータで紹介致します。母校の姿を十分に感じて下さい。

母校現況

(3) 居住市町村

課程	学年	市町村		船橋市	習志野市	八千代市	千葉市	浦安市	市川市	松戸市	鎌ヶ谷市	沼南市	我孫子市	柏市	流山市	佐倉市	白井町	印西市	印旛村	栄町	酒々井町	市原市	成田市	四街道市	袖ヶ浦町	富里町	大網町	埼玉町	埼玉町	計		
		男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女		
普通科	1年	男	79	22	17	22	9	46	19	8	1	1	6	22	6	1	1														261	
		女	51	17	9	8	5	24	8	8				3	19	1		1													154	
	2年	男	89	14	14	19	26	40	17	12			1	1	4	2																272
		女	58	9	9	9	14	16	9	10					5																	159
	3年	男	85	15	16	14	24	55	10	18			1	7	1	24	12	2														138
		女	53	7	6	10	12	21	6	5				1	1	10	3	1	2													88
計	男	253	51	47	55	59	141	46	38			3	2	17	3	70	25	3	1												819	
女	162	33	24	27	31	61	23	23					2	9	1	45	7	1	3											451		
理数科	1年	男	7	1	2	6																2		3	1		1				32	
		女	3						2	2																						9
	2年	男	8	2	2	9	3	4	2														2	1	2	2						37
		女	1			1																										6
	3年	男	7	1	3	4	1	6	2	1						1	2						2	1								31
		女	1																													11
計	男	22	4	7	19	4	13	5	2					2	1	4						6	2	5	3						100	
女	4		5	1	2	6																									26	

(4) 出身中学校

中学校	普通科			理数科			中学校	普通科			理数科			中学校	普通科			理数科			中学校	普通科			理数科			
	1	2	3	1	2	3		1	2	3	1	2	3		1	2	3	1	2	3		1	2	3	1	2	3	
船橋	8	7	7				習志野	7	6	2	1	1	天	1	2	3	河	2	5	1	1	1	1	白	1	2	16	4
宮本	11	3	9	1	1	1	八千代	3	3	2	1	2	磯	1	1	1	常	1	1	1	1	1	1	井	8	8	9	1
海神	2	3					阿	2	1	2	1	1	磯	2	2	1	小	1	1	1	1	1	1	佐	1	1	2	
藤	4	9	7	2	1		勝	5	3	6	1	1					業	1	4	1	1	1	1	白	6	5	2	
法	1	3	4				村	2	2	1							六	7	2	2	1			西	1	1	1	
法	4	5	7	1	1		大	4	5	4	1	1					牧	3	3	5				印	1	1	2	
二	5	4	4				高	2	3	1							野	1	1	1				西	1	1	1	
豊							八	9	3	2							新	1	3	2	1			七	3	1	6	
森							代	2	2		1						全	2	1					木	1	2	2	
原	9	6	4				東	1	2								ヶ	1	1					大	2	6	3	
高	5	4	1				村	1									名	1	1					山	2	2	1	
習	13	13	13	3			橋				1						ヶ	1	4					白	1	1	1	
志							小	3									谷	6	7	9				榮				1
野	3	1					花	4	1	2	1						二	1	4	3				酒	2	2	2	
台	3	7	3				小	1	2	1							ヶ	6	6	9				玉			1	
松	5	7	6				藤	6	5	1							ヶ	1	5	2	1			吾			1	
高	8	9	5	1	3		福	6	5	1							ヶ	1	1					君			2	
三	10	10	8	1			花	1	2	1							高	1	1					中			1	
行	7	11	16				見	1	3	3							花	1	1					富			1	
比	4	2	9				朝	1	2	1							見	1	1					吉			1	
芝	6	14	7	1	1		日	1	1	1							台	1	1	1	1	1	1	原			1	
大	3	1	4				花	1	1	1							下	1	1	1	1	1	1	六			1	
小	7	8	9				見	1	1	1							川	1	1	1				柏			1	
坪	4	3	3				朝	1	1	1							川	1	1	1				柏			1	
三	5	4	6				日	1	1	1							高	3	6	1				西			1	
飯	4	6	4				豊	1	1	1							谷	4	1	3				南			3	
旭	6	6	4				砂	1	1	1							高	1	1	1				井			1	
習	3	3	3				高	4	5	2	1						州	1	1	1				根			1	
志	4	1	2				高	1	1	1							州	1	1	1				上			1	
野	1	2	5				州	1	1	1							西	1	1	1				井			1	
四	10	2	3				西	1	1	1							高	1	1	1				井			1	
習	5	3	4				島	1	1	1							高	1	1	1				井			1	
志	6	5	3				島	1	1	1							高	1	1	1				井			1	
野	5	3	4				島	1	1	1							高	1	1	1				井			1	
六							島	1	1	1							高	1	1	1				井			1	

2. 卒業生の状況

(1) 卒業生数

区 分	期間(卒業年度)	卒業生数	
中 学 院	大正9～昭和6	48	
私 立 中 学 校	昭和7～昭和14	142	
市 立 中 学 校	昭和15～昭和18	113	
県 立 中 学 校	昭和19～昭和23	423	
(〃 併設中学校)	(昭和22～昭和23)	(*459)	
県立高等学校	普通科	昭和23～	14,994
	理数科	昭和46～	772
	農業科	昭和25～昭和37	379
計		16,871	

(2) 平成元年度卒業生の進路概況

進 路		生徒数
進 学	国 公 立 大 学	99
	私 立 大 学	112
	短 期 大 学	4
	準 大 学	1
	専 門 学 校	0
小 計		216
就 職		0
そ の 他		247
計		463

(3) 最近3ヶ年の大学合格者数(延人数)

区 分	大 学	63年度		元年度		2年度		区 分	大 学	63年度		元年度		2年度	
		新	旧	新	旧	新	旧			新	旧	新	旧		
四年制大学(国公立)	北 海 道	2	1	4	7	5	3	四年制大学(私立)	青 山 学 院	7	4	10	7	9	15
	東 北	5	6	7	4	7	7		学 習 院	9	8	9	8	6	20
	筑 波	0	3	4	2	3	2		慶 応 義 塾	30	39	32	36	37	49
	埼 玉	5	8	8	8	4	2		成 城	2	3	8	2	0	12
	千 葉	20	16	28	18	29	16		芝 浦 工 業	1	5	1	4	0	4
	東 京	5	10	6	7	9	7		上 智	17	25	19	18	33	33
	東京外国語	1	2	3	2	4	0		成 蹊	1	3	4	4	7	5
	東京学芸	4	5	6	1	1	0		聖 心 女 子	4	0	2	0	5	0
	東京工業	4	8	11	11	10	10		中 央	6	19	9	19	10	28
	東京農工	3	1	7	4	2	2		津 田 塾	6	2	4	1	11	0
	お茶の水女子	3	0	3	1	7	2		東 京 女 子	13	4	28	2	18	2
	電気通信	2	1	1	1	2	1		東 京 電 機	3	8	5	5	1	6
	一 橋	1	2	3	4	6	6		東 京 理 科	32	82	28	132	35	71
	横 浜 国 立	4	8	7	8	8	5		日 本	5	20	10	22	7	36
	信 州	3	3	2	3	1	1		日 本 女 子	7	1	8	1	13	7
	名 古 屋	2	3	6	8	1	0		法 政	9	16	8	14	7	23
	京 都	5	11	3	9	5	2		武 蔵 工 業	0	7	0	2	0	0
	大 阪	5	10	2	3	2	0		明 治	10	37	22	35	13	40
	神 戸	1	1	1	2	1	3		明 治 学 院	6	4	1	9	3	8
	九 州	0	0	2	1	0	1		立 教	12	11	12	17	19	28
東京都立	0	4	0	3	3	3	早 稲 田	57	83	55	80	52	100		
横浜市立	1	0	2	1	1	1	そ の 他	44	40	44	60	29	86		
都立科学技術	1	1	2	2	0	1	小 計	281	421	319	478	315	571		
そ の 他	8	20	8	33	5	23	短 期 大 学	14	3	21	10	19	4		
小 計	85	124	126	143	116	98	合 計	380	548	466	631	450	673		

母校近況

〓部活動〓

将棋部全国大会出場記

顧問 小松 広

私たち一行が千葉を立ち、大会の開催地である天童に到着したのは八月九日の午後四時頃でした。この大会の正式な名称は「第26回全国高等学校将棋選手権大会」といって、男女の団体戦と個人戦があり、船橋高校は千葉県の代表として、男子団体戦に出場したので

す。団体戦は三人で一チームとなり、二人が勝てば勝ちというトーナメント戦です。選手は、三年生の堀井君、笠島君と二年生の前田君の三人です。彼らの腕前は、プロ棋士と飛車落ちで勝ち負けになる位の力で、プロの道に進もうと考へた事もあるそうです。また、礼儀正しく、大変好感のもてる生徒たちです。

男子団体戦に出場したのは三九校で、抽選の結果、一回戦の相手は兵庫県代表の淳心学院高校と決まりました。大会は翌十日の九時半より、宿舎である天童ホテルの大会議室を使って行なわれました。一回戦を無事にクリアすると勢いづいたのか、二回戦では福島県の福島高校を、三回戦では三重県の高田高校を破り、とうとうベスト四に残りました。翌十一日、準決勝で福井県の高志高校を破り、決勝戦となりました。相手は東京代表の強豪麻布高校です。テレビカメラが回る中、彼らは怖めず臆せず戦いましたが、力及ばず3対0で敗れました。しかし、立派な戦

い振りでした。彼らにとって少し残念なのはホテルから一歩も出れなかったことかも知れません。

陸上部

岡田 一彦

一九九〇年六月九日。横殴りの雨が降りしきる中、助走スピードが一段と上がった。「ウオウッ」と歓声があがった。「七m七六」と八mジャンパー達を尻目に高校生がトップに躍り出た。……最終結果は七m七九、第二位。惜しくも北京のアジア大会の日本代表に漏れはしたが、七四回を迎える日本陸上競技選手権大会の走幅跳に高校生が第二位に入賞したのは戦後初の快挙であった。

君にはとてつもない可能性がある。勿論いくつかの条件付(条件については既に話してあるので省略する)だが、近い将来、かつて日本のお家芸であったオリンピックの三段跳で入賞できるのは君のほかにはないだろう。走幅跳でもコンスタントな八mジャンパーになるであろう。私は大ボラを吹いているわけでは決してない、将来

も大いなる可塑性を望めるアスリートであり、日本では数少ない自立したアスリートでもあるという確かな根拠があるからいえるのだ。適当な練習・トレーニング(君には異存があるかも知れない)。

君の輝かしい成果は、私にいわせると、適度な運動刺激を伴った発育発達によるものであり、トレーニングの賜ではない。出すぎると多くの人に指摘された試合が君の数少ない本格的な練習とトレーニングの場であった。顧問や監督に遠隔操作されるロボットのような他の多くの高校生と違い、一回一回の試技の度に、自分で思考・判断し、その結論に基づいて、身をもって思考錯誤を体験(行為)してきた。指導者がいなかったも同然だったから(いなかったとは違

うよ。金丸先生、川越コーチ、両親等の指導者の存在を忘れないで貰いたい)、指導者が変わったら駄目になってしまったという心配もないであろう。大きな蕾が開花するために、今後、自ら指導者を求め自ら思考し、三年間くらい辛抱して(開花を急ぐな)本格的な練習とトレーニングに取り組んで貰いたい。

イギリスに高い身分に伴う徳義



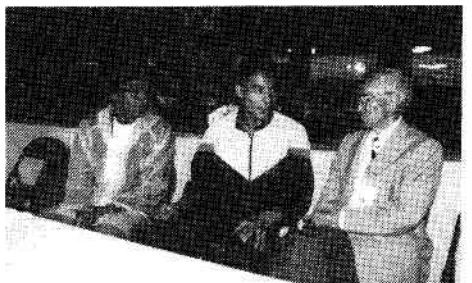
▲千葉大会の男子走幅跳、三段跳の3種目を制した小松(船橋)。記録は7m51の船橋高校新と13m39。昨年のこの大会では幅が7m17で6位、三段が14m25で4位に入っている。

上の義務 noblese oblige という言葉があるように、常識ある社会人になる訓練も忘れないで貰いたい。例えば、他人が発表しているのにお喋りしたりとか、コンサートの最中に漫画を読んだり物を食べたりお喋りしたりとか、そんなことを何とも感じない鈍感な人になっては貰いたくない。大丈夫とは思いますが、陸上競技ほどにも訓練されていないので、心配してないわけではない。

以下は君の成果です。君以外の多くの人にとっては単なる数字にすぎないが、君にとっては君の身体運動記憶やそれまつわる行為を呼び覚ます貴重な記号であり私にとっても少しではあるが君との共感呼び戻しうる貴重な記号である。十八歳、青春の真ただ中で獲得した記号を大切に、将来の成長に役立てて貰いたい。(岡田一彦)

- 県高校総合体育大会
 - 走幅跳 優勝 七m五・一 県高校新
 - 三段跳 優勝 一五m三九 大会新
 - 走幅跳 三位 七m三九
 - 三段跳 二位 一五m五〇
- 南部忠告記念アジア大会(担任試合)
 - 走幅跳 優勝 七m三七
 - スパー 国際陸上競技大会
 - 走幅跳 七位 七m一七
- 国民体育大会
 - 三段跳 二位 一五m六五 高校日本
- 世界ジュニア陸上競技選手権大会(ブルゲンリアのプロブジブ)
 - 三段跳 二位 一五m六五 高校日本
 - 歴代七位

段跳日一表



(写真説明)

下君の二位に感激した織田氏が下君と話したいということ、対談している風景です。練習やりすぎるな々の一言が、今も残っています。織田幹男氏は、一九二八年オリンピックアマステルダム大会優勝一五m二一

あとがき

七十周年記念号を志しましたがいかがでしたでしょうか。当日の盛り上りを伝える事は難しく十分とはいえませんが、その分、当日のビデオ録画を用意してありますので、「新春のつどい」等で上映致します。その節に、感慨をあらたにしていただけばと思います。末筆ながら、森田会長の御快復と同窓会諸氏の御健勝を念じつつ今後の御協力を、お願い致します。